

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第55号
2011年1月15日



2011年 年頭所感 「現在」を史料として蓄積する活動を!! 日本看護歴史学会理事長 芳賀佐和子

2010年は、看護とは何かを発見し、看護を専門職として位置づけ「看護は人生の最高の喜びのひとつであるべきです」と断言したナイチンゲールの没後100年の年でした。また、彼女の著書『看護覚え書』の内容は150年間読み継がれ、なお新鮮さを失わず、現代に生きています。そのような意味でナイチンゲールから学び、ナイチンゲールを伝える活動が行われた年といえましょう。本学会でも昨年慶応義塾大学看護医療学部湘南藤沢キャンパスで行われた第24回学術集会では、白井堯子名誉教授による講演が行われました。

さて、日本看護歴史学会理事会メンバーは学会の折に「看護界の出来事 2009年」と題してポスターを作成し発表しました。これは今期の活動の一環として行われたものです。その目的は将来に向かって史料となる現在の出来事を書き留めて、足跡を残すことにあります。この企画は、『日本の看護120年—歴史をつくるあなたへ』の執筆に担を發しています。執筆者達は史料となる写真や文書を探し出すことにたいそう苦勞されたと聞きました。その時に考えたことは、「現在はやがて過去になる」ということです。そこで、将来史料となる現在の出来事を書き留めて蓄積していくことにしました。昨年は次の4つを取り上げました。①法律改正（爪切り裁判も含む）②カリキュラム改正（保助看法及び指定規則改正）③看護師の業務拡大④新型インフルエンザ流行です。学術集会

の会場でご覧いただいた方も多いのではないかと思えます。

最近私は本学の130年史の編集に携わっていますが、故人の写真や古文書など史料の掲載に関する手続きに多くの時間を要しています。また、掲載料の生じる史料もあります。私も故人の写真等を親族の方から頂き保管している物がありますが、使用の度に文書で許可をいただいて、出典を明記し、論文等をお送りする様にしています。つい先日テレビで坂本龍馬記念館の方が龍馬の貴重な写真の貸し出しを多く受ける様になったと言っていました。写真の用途は研究のみならず商業用等多岐にわたり、時には使用をお断りする場合もあるそうです。ちなみに料金は一枚5250円とのことでした。

歴史研究において、一次史料は特に重要です。現在を生きている私たちに出来ることとして、史料収集活動を推進していきたいと思えます。日本各地の看護の出来事なども会員の皆様から発信していただきたいと思えます。

今年、第25回学術集会は、8月26日（金）・27日（土）に沖縄県立看護大学で仲里幸子学術集会長のもとで行われます。沖縄での学術集会は初めてです。沖縄から発掘された史料は私たちに何を語りかけてくれるのでしょうか。楽しみです。

皆様、今年も楽しく看護の歴史を学んでいきましょう。

日本看護歴史学会 第24回学術集会を終えて

第23回学術集会会長 三上 れつ

このたび、会員の皆様方ならびに理事会のご支援とご協力を賜りまして、日本看護歴史学会第24回学術集会を無事終了することができ、企画・実行委員一同、心から感謝申し上げます。

例年の開催期日と学事（基礎看護学実習）が重なっていたため、1か月遅れて開催しなければならなかった関係上、事前登録も少なく参加者数は100名を超えるのだろうかと思ひやひやしておりました。加えて、開催場所が交通の不便な郊外にあるということと、夏季休暇中で食堂が閉鎖されているため、参加者のお食事はどのようにしたらよいのかなども考えなければなりません。そこで、参加者の皆様方が気持ちよく参加できるように、ほとんど手作り体制で対処して参りました。大きな学

会とは異なりますが、日本看護歴史学会学術集会ならではのゆったりしたアットホームな雰囲気と、歴史の面白さや重要性を再認識できるプログラムとなるよう、慶應義塾の歴史編纂にかかわる諸先生方にご協力をいただき特別講演や教育講演を企画いたしました。お陰様で、学生を含めて172名の参加者を得て、何とか学術集会の体裁を保つことができました。

今回のテーマは、慶應義塾創設150年の流れを引き継ぎ、「今、実学を問う—歴史にみる看護教育実践活動—」とし、1日目の午後に講演をまとめました。小室正紀先生の特別講演「実学をひもとく—教育の発想転換—」では、福澤諭吉の実学論について分かりやすく分析していただき、現代

社会において実学をどのように考えていくことが必要なか問題提起していただきました。白井堯子先生の教育講演Ⅰ「女性の地位をめぐるF. ナイチンゲールとJ.S. ミル―福澤諭吉に至る英国思想の流れから―」では、女性史研究者としてナイチンゲールについて造詣が深いお立場から、看護とは別の観点からナイチンゲールの活動や側面についてお示しいただきました。限られた時間内の講演では語り尽くせないこともあり、学会誌には講演内容に少し加筆していただくようお願いしております。山内慶太先生の教育講演Ⅱ「医療史研究の課題―オーラルヒストリーの意義―」では、歴史研究の方法論の他、史実の蓄積の重要性について説明していただきました。この内容は、聖路加看護大学主催の交流セッションの話題とも通ずるものがあり、いろいろな学校や病院で、アーカイブスの設立と運営に取り組んでいく必要性が明らかとなりました。

2日目は口演・示説・交流セッション・ワークショップを企画し、会員相互の意見交換や学びができるよういたしました。会員の皆様が発表する口演・示説会場はどこも盛況で、ほどよく参加者

が振り分けられたように思いました。願わくば、演題数がもう少し増えることが今後の課題のように思います。また、交流セッションでは、昨年の反省を踏まえ、テーマによって話題提供と参加者の交流時間が取れるように考慮したため、意見交換も活発に行われておりました。慶應看護の交流セッションを通して、企画・実行委員は自分たちの歴史をきちんと掘り起こし蓄積していくことの必要性を痛感した次第です。今回の学術集会で反省したことは、「慶應展示（写真・資料）」や「業者展示」のコーナーにも参加者が目を向けられるように動線を考慮する必要があるということです。

最後に、第24回学術集会開催を引き受けて大変さもありましたが、歴史を知ることで視点を変える喜びにも出会えました。本学部は2011年に学部開設10周年を迎えますが、今回の学びを活かし、一同、史実の蓄積をきちんとしていこうという動機付けともなりました。このような、機会をいただきましたことに重ねて感謝致します。ありがとうございました。

日本看護歴史学会第24回学術集会収支決算報告

開催日：平成22年9月19日（日）・20日（月・祝日）

収入の部				支出の部				(円)
収入費目	予算額	決算額	備 考	支出費目	予算額	決算額	備 考	
学会補助金	200,000	200,000		補助金返済	200,000	200,000		
			事前申込 7,000×106名	施設・会場設営費	120,000	126,735	パネルレンタル、冷房費	
参加費	1,100,000	1,216,000	当日参加 8,000×57名	準備・当日運営費	120,000	128,048	学生謝金、委員弁当代	
			学生 2,000×9名	会議費	250,000	268,467	弁当・お茶、交通費	
講演集販売	0	1,000	1冊	通信・運搬費	50,000	62,595	メール便講演集送付	
利息	0	40	スルガ銀行	印刷費	300,000	328,835	講演集、参加証、封筒	
				講演謝金	220,000	220,000		
				広告掲載料	5,000	5,000	紅梅会（同窓会）会報	
				記念品費・謝礼	30,000	30,275	タオル・ストラップ、菓子	
				雑費	5,000	4,195	ネームホルダー、文具	
				余剰金	0	42,890		
収入合計	1,300,000	1,417,040		支出合計	1,300,000	1,417,040		
懇親会参加費	150,000	192,000	3,000×64名	懇親会経費	150,000	192,000		
広告・展示料	135,000	135,000	広告2社75,000 展示3社60,000	懇親会飲み物代	0	34,000		
個人寄付	0	50,000	中鉢美津子元看護部長	参加者昼食費用	135,000	146,720	200食（お茶含む）	
収入合計	285,000	377,000		余剰金	0	4,280		
総収入合計	1,585,000	1,794,040		支出合計	285,000	377,000		
				総支出合計	1,585,000	1,794,040		

余剰金42,890+4,280=47,170円は日本看護歴史学会に寄付いたしました。

「第24回学術集会に参加して」

愛知県立大学看護学部 小松万喜子

第24回学術集会は、「今、実学を問う―歴史にみる看護教育実践活動―」をテーマとして9月19日・20日に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催されました。私は「実学」というテーマに強く興味をひかれ、娘と2人で参加しました。三上れつ先生の会長講演に引き続き、小室正紀先生の特別講演「実学をひもとく―教育の発想転換：福澤諭吉の場合―」があり、福澤諭吉の「実学」の二

つの面として、物質的（経済的）自立、精神的自立（自ら思慮判断できる智力）についてお聞きしました。実学は単なる実用主義や実業学ではなく真理原則を追求するものであること、あわせて、実学は実業と無関係な学問のための学問であってはいけないという基本となる考え方を学びました。明治時代の文章は難解でしたが、小室先生の解説がわかりやすく、楽しい講演でした。

白井堯子先生の教育講演「女性の地位をめぐるF. ナイチンゲールとJ.S. ミルー福澤諭吉に至る英国思想の流れから」では、同時代を生きた偉大な3人の交流と思想の流れを初めて知り驚きました。そして、講演内容もさることながら、白井先生の研究活動の深さと広がり刺激され、歴史って面白いなあ、と改めて思いました。

2日目は交流セッション「北里柴三郎の看護教育の考え方」に参加しました。北里柴三郎は「日本の細菌学の父」といわれ、医療に携わる人間であればその業績を知らない人はいないと思いますが、初代慶應義塾大学医学部長として、大学病院建設に先立って「医師に次いで最も主要なものは看護婦である」という考えのもとに慶應義塾大学医学科附属看護婦養成所を設立し、看護教育に力

を注がれた経緯を詳しく聞き、北里柴三郎の人物像が大きく変わりました。話題提供者の発表後は参加者も加わって活発な意見交換や情報提供があり、日本看護歴史学会ならではの雰囲気を楽しみました。

発表の合間に「慶應展示(写真・資料)」のコーナーも見学させていただきました。時代や社会のめまぐるしい変化を受け、多くの課題を乗り越えて今に至る歴史を垣間見て、その重みを感じるとともに、古き伝統をもつ学校が羨ましくもありました。

2日間、運営にあたられた皆様の温かい雰囲気の中、充実した多くの企画を満喫させていただきました。よい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

「看護界の出来事2009年」を終えて

今期を代表する活動推進委員 高橋みや子

今年度の学術集会時に、学会理事会企画で看護界の出来事を学術資料として記録することを目的に、「その年の看護界の出来事」を写真、図等を用いキャプションを付けてポスターを作成し、第1回目「ラウンジ発表」を行いました。

取り上げたのは4題で、①法律改正(爪切り裁判も含む)②カリキュラム改正(保助看護法及び指定規則改正)③看護師の業務拡大④新型インフルエンザ流行でした。

次年度は新設【特別委員会】の下で、企画・運営を充実させてゆきたいと思います。

ワークショップ・分科会

『これだけは備えておきたい歴史研究方法のキーポイント第2弾』を終えて

研究活動推進委員会 丸山マサ美・山本 捷子

学術集会2日目に参加者、24名でワークショップ・分科会をもった。ミニレクチャーは、高橋みや子講師の体験から生み出された豊かな内容であった。1. 触発された文献探索の経験、2. 文献史料の重要性、3. 補助史料の集め方；歴史の土地・図書館・資料館訪問、4. 史料検討・整理の方法、年表作成、出典・所蔵の明確化、5. 収集資料の扱い方、6. 次の作業・方向性へ。

分科会は、個人史5名、看護制度4名、看

護教育9名、地方・外国史4名、在宅看護2名で、6つの分科会で、メンバーの現在の研究の取り組みやこれからの展望に話し合いが白熱した。アンケートには、○フリーの企画は貴重。○小グループで話し合えて良かった。○若い世代が新しい分野で研究していることを知り刺激を頂いた、若返った、など肯定的な意見が多かった。

日本医史学会理事ヴォルフガング・ミヒェル先生特別講演

『近世の東西交流における医療と医学』を聞いて

2010年8月20日(金)の夕、九州大学医学部百年講堂で開催された講演会に参加した。ミヒェル先生は、30年前に来日された理学博士ですが、現在では江戸時代以後の東洋西洋医学の交流研究の第一人者です。史料の収集は、個人蔵の国内史料だけでなく、オランダ国立公文書館など多岐にわたり、先生のどこまでも追及して行かれる姿勢と情熱に圧倒されながら聞き入りました。近世の東西医療の複雑かつ豊かに入り組んだ交流に関心と興味をひかれると同時に、ミヒェル先生の自らの足と時間を駆使して、あきらめることなく探し求めるお姿から、歴史研究者の基本的な態度を学ぶことができました。

福岡県立大学看護学部 山崎 律子

日本看護歴史学会第25回学術集会の開催について

学術集会会長 仲里 幸子

日本看護歴史学会会員の皆様、あけましておめでとうございます。新しい年を迎えられ、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今年第25回学術集会をご案内の通り、8月26日(金)・27日(土)の2日間、沖縄県那覇市にあります沖縄県立看護大学において開催いたします。ご存じのように沖縄は青い海に隔てられ、空路でのご移動をお願いしなければなりません、異国情緒あふれた文化に触れることができると思います。

第25回学術集会は、テーマとして「歴史を掘りおこし、明日の看護を拓く」としました。多くのいのちと街を形作った建造物、歴史を語る資料のほとんどを失った沖縄で歴史を掘りおこすことは容易ではありません。

終戦から立ち上がり、医療などの必要なことが整えられ、落ち着きを取り戻しつつあったころから沖縄は、自ら記録を収集することを始めました。米国に当時の公文書をはじめ撮影された記録などが存在することがわかり、その残された記録を収集し、沖縄で後世に引き継ぐことを目指したのです。

この学術集会では、公文書を沖縄に残すことを目指した方のお一人を教育講演にお呼びいたしました。米国で12年間にわたってアーカイブスの研究をしてこられた沖縄県公文書館アーキビスト仲本和彦氏に「記録なくして歴史なし—米国での記録の調査・研究の体験から—」というテーマでお話ししていただくことを計画しています。

また、特別講演として、戦後の特殊な沖縄の行政を体験してこられた元沖縄県副知事石川秀雄氏に「米国施政下における戦後沖縄の行政機構について」と題して講演していただく予定です。沖縄の保健・医療を取り巻く背景となった当時の状況について皆様とともに考えていきたいと思います。

いのちの重さが軽く扱われる傾向にある昨今、いのちと日々向き合う私ども看護に携わるものとして、地球環境＝生態系という生命のつながりをもう一度思い起こすためにたくさんいのちが失われたこの沖縄で「日本看護歴史学会第25回学術集会」を行うことは意義深いことだと思っています。小さくせまい学内ではありますが、肩が触れ合うような和気あいあいとした暖かさと熱気で皆様をお迎えしたいと思います。

また、会場である沖縄県立看護大学には沖縄の諸先輩方の大きな思い

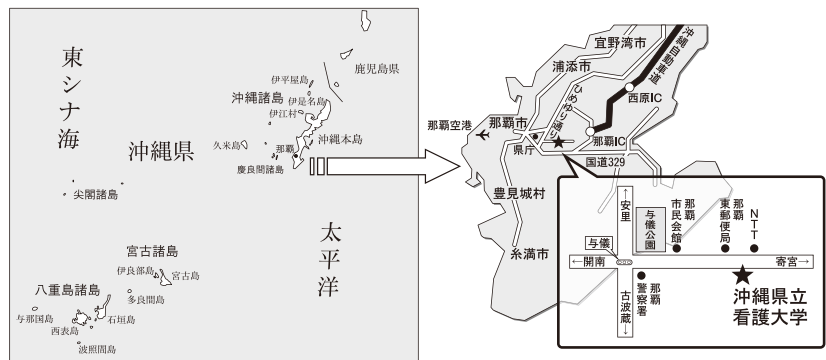
が詰まっています。図書館の左側のお庭に茶色の碑がそっと建っています。これは、この会場である「沖縄県立看護大学」に至るまでの沿革が記されています。また、体育館の後ろ側、食堂の近くの大きな木の下にもコンクリート造りの戦後沖縄の看護学校の名残の碑が残されています。

那覇市内の観光も楽しむことができ、また琉球王国の名残のある首里城、外国からの要人をもてなした識名園もちかくにございますので散策することもできます。

今回の第25回学術集会は、少人数の会員での運営ですので十分に行き届かない点もあろうかとは思いますが、皆様のご指導・ご協力を得て、精一杯準備を進めて参ります。

皆様の研究発表・ご参加を心からお待ち申し上げます。

《交通アクセス》



《お問い合わせ先 第25回学術集会事務局》

〒902-0076

沖縄県那覇市与儀1丁目24-1 沖縄県立看護大学内

FAX 098-833-8935

E-mail:rekishi25@mail.edu.okinawa-nurs.ac.jp

《2011年第25回学術集会プログラムのご案内》 沖縄県立看護大学 8月26日～27日

26日 (金) 9:00 ～ 17:00	開場・受付、オリエンテーション	展示
	会長講演 仲里 幸子 「歴史を学び、看護の未来を拓く—戦後沖縄の看護から学ぶこと—」(仮)	
	特別講演 石川 秀雄 「米国施政下における戦後沖縄の行政機構について」	
	総会	
	昼食	
	研究発表(口演・示説)、交流セッション	
	特別セッション 元ひめゆり学徒の体験から(仮)	
27日 (土) 9:00 ～ 12:30	連絡事項	
	開場・受付	
	教育講演 仲本 和彦 「記録なくして歴史なし—米国での記録の調査・研究の体験から—」	
	研究発表(口演・示説)、交流セッション	
	閉会	

京都リンド・リチャーズ研究会 ～継続は力なりを実感する～

京都府立医科大学 岡山 寧子

本研究会は、明治期の看護教育史、中でも京都看病婦学校の足跡を語り合う3人の小さなグループである。研究会というには少々寂しいが、何とか続けて約30年、今となつては「継続は力なり」を実感している。

始まりは職場有志によるアメリカ看護教育の勉強会と記憶している。当時日本では、看護が高等教育化へと歩み始めた頃で、先を行くアメリカの看護教育史を学ぼうという抄読会であった。私は拙い英語力ながら、色々なアメリカの看護教育文献を読んだことを覚えている。中でも、American Journal of Nursing掲載の「アメリカで最初の看護教育を受けたリンド・リチャーズが京都で看護教育に尽力した」という文章と「人力車に乗った彼女の写真」に強く惹かれた。彼女の来日の経緯、実践した看護教育内容はと、どんどん興味が膨らんだ。

その後、しばらく勉強会は休止状態だったが、メンバーの1人がリチャーズ活躍の舞台ボストンに渡り、彼女が教育を受けた病院やお墓などを訪れる機会があり、それを機に研究活動が再燃した。今から約10年前のことである。

その後、同志社大学にリチャーズや京都看病婦学校関連の一次史料が保存されていることを知り、足繁く大学に通い、その史料の収集・読み込みを始めた。この10年で取り組んできたのは「開設当初の京都看病婦学校における教育の検証」である。リチャーズの日米での教育活動の足跡、京都看病婦学校の教育内容、卒業生の動向など、学校規則をはじめ年次報告書、アメリカン・ボード宣教師文書、同窓会誌などを軸に、関連する史料探しに奔走しながら、少しずつ紐解いてきた。

現在、リチャーズが日本滞在中に記した61通のアメリカン・ボードへの報告書簡を繰り返し読み、リチャーズの目線からみた当時の学校の姿をみつめている。何がみえてくるのかが目下の楽しみである。

この研究会はメンバーのライフ・ワークの場になっているように思う。足を使ってできるだけ一次史料に触れ、事実を知りたい、解き明かしたい、その意味を知りたい……そしてこれからの看護教育を考えたいという思いに浸りながら、これからも細く長く活動していきたいと願っている。

聖路加看護大学写真資料への取り組み

聖路加看護大学大学史編纂資料室 新沼 久美・渡部 尚子

本学では、アーカイブ事業の重要性に鑑み2008年4月に大学史編纂資料室を設置した。90年の歴史を持ち、戦前では唯一の専門学校（旧制度）であった本学が所蔵する歴史的資料には計り知れない価値があると思われるが、実態は多くの資料が未整理あるいは散逸の状況にある。

編纂資料室では、ここ2年半、これら資料の「収集」「整理・保管」「公開・提供」の一連のアーカイブ活動に取り組んできた。本稿では、写真資料の取組みについて報告する。

I. 大学所蔵写真の仕分け分類と電子化

まず、大学所蔵（個人寄贈含）の写真を「建造物」「授業」「行事」「人物」「その他」に大分類し、分類された各写真に、①分類番号、②現物様式、③撮影年月、④卒業年次、⑤キャプション、⑥備考の情報を入力した。また「行事」については、その種類・枚数の多さから下位分類を設けその番号を付した。電子化の形式はJPEG形式とした。

II. 諸写真の収集：

■収集すべき諸写真のリストアップ

上記分類した諸写真を概観し、今後、大学が所蔵すべき写真をリストアップした。所蔵すべき写真とは、建造物では校舎・寮や学内風景・諸設備等。行事では入学・戴帽式・卒業式の暦年集合写真。人物では歴代学長・教職員の他、顕著な業績活動を遺した卒業生。その他、エポックメイキングな出来事に関連した写真を取上げた。

■広報と収集

収集にあたって、同窓会総会および会報等を通して寄贈・借用依頼の広報活動をした。また、貴重写

真の所有者や関連機関への交渉も行った。円滑な寄贈・借用・返却のために文書交換を行い送料経費は大学負担とした。所有者との直接授受の折には、写真に纏わる情報収集も行った。資料の授受において迅速な受け渡しを行った事は言うまでもない。

III. 収集した資料の電子化と整理・保管

現在、1920～1970年の写真1800余枚の電子化が終了した。この作業過程で暦年クラスの集合写真をパソコン上に取り込み、画像上に氏名を書き込む人物同定を行った。1923～1929年卒業生の約20パーセント、1930～1956年卒業生の98パーセントが特定できた。

しかし、問題は紙媒体としての原資料（紙焼き写真等）の整理・保管である。現状では保存環境が整った場所がなく暫定的にファイル等に整理し書庫戸棚に保管している。

IV. 公開・提供

現在、*写真展示、*広報への写真掲載協力、*教育教材、*歴史資料の作成、*私家版への協力、*メディアへの協力（新聞掲載用写真等）等、学内を主とした教育・研究・運営への公開・提供協力を行っている。

以上、本学での取組みを述べたが、課題として①所蔵すべき写真の早期収集、②紙媒体写真の保存整理法（保存環境・保存場所の物理的環境調整）、③レファレンス機能の促進④更新電子媒体への対応等を抱えている。また、小規模単科大学の最大の悩みである経済基盤の弱さを補うために、同窓会・関係諸機関への寄附による支援を働き掛けている。

五史学会合同例会に参加して

12月11日(土)に、日本医史学会、日本歯科医史学会、日本薬史学会、日本獣医史学会、日本看護歴史学会の五史学会合同例会が順天堂大学で開催されました。本学会からの参加は4回目ということでしたが、「看護歴史研究におけるプラング文庫の意義」というテーマで発表させていただきました。

1945年～1949年まで、GHQSCAP、参謀第二部(G2)のCCD(民間検閲部隊)は、日本占領中に出版するものを、発行者からすべて(雑誌、図書、新聞、映画、ポスターなど)を受け取り、発行させてよいかを「日本出版法」に則って審査しました。出版物や英文の検閲文書が無くても、アメリカのメリーランド大学のプラング文庫に行くと、それらを見ることができます。プラング文庫の責任者はGordon W. Prange博士(故人)で、私はこの7年間、文部科学省の基盤研究(c)を受けてアメリカに通っています。

今回、五史学会合同例会に参加することで多くの刺激を受けました。懇親会では、参加者とともに、美味しいお料理をいただきながら、次年度は日本看護歴史学会でも、多くの催しをしたいという話でもしました。

なお、本学会の高橋みや子副理事長が、例会や懇親会の運営をさせていただきます。

(東京慈恵会医科大学 大石 杉乃)

新入会員紹介(敬称略)

* ()内は会員番号 平成22年7月～10月入会

- | | |
|---------------|---------------|
| 松田 英子 (10009) | 荒井 幸子 (10010) |
| 堅野眞紀子 (10011) | 荒尾 博美 (10012) |
| 萩澤さつえ (10013) | 原田 千鶴 (10014) |
| 堀河 美和 (10015) | 藤井千枝子 (10016) |

お知らせ

■事務局から

平成22年度会員動向(平成22年10月31日現在)

- | | |
|-------------------|------|
| 1. 会員数(特別会員1名を含む) | 334名 |
| 2. 入会者数 | 16名 |
| 3. 退会者数 | 6名 |

会費納入のお願い

平成23年度会費(6,000円)ですが、会報とともにお送りした払込取扱票に必要な事項をご記入の上、郵便局から払い込んでください。なお、平成22年度や21年度の会費をまだ納入されていない会員の方は合わせて納入をお願いいたします。3年間会費滞納の場合、退会となり会員資格を失いますのでご注意ください。

所属・住所変更や退会の場合

所定の変更届や退会届(本会ホームページからダウンロードできます)を事務局にご提出ください。

編集後記

会報55号をお届けいたします。新しい年にふさわしい年にしていかれるように会員の皆様のご活躍を祈念しております。(つ)

2010年度 第8期理事の役割

(2010年9月20日～2011年3月31日)

役割	担当	氏名
理事	理事長	芳賀 佐和子
理事	副理事長/広報委員会	◎高橋 みや子
理事	企画・会報委員会	◎坪井 良子
理事	事務局	◎山崎 裕二
指名理事	事務局	川原 由佳里
指名理事	会計(事務局)/特別委員会	◎大石 杉乃
指名理事	会計(事務局)/企画・会報委員会	樋野 恵子
指名理事	情報システム委員会	◎日下 修一
理事	編集委員会	◎岡山 寧子
理事		依田 和美
理事	研究活動推進委員会	◎山本 捷子
理事		丸山 マサ美
	監事	川嶋 みどり
	監事	田中 幸子

◎印:委員長

第9期理事・監事選挙の公告

2010年9月20日の総会で、第9期理事・監事の改選が確認されました。これにより「日本看護歴史学会理事および監事選挙規則」に基づき、本会報の発行日をもって理事・監事選挙公示日といたします。

投票期間は、発行日より平成23年3月15日(当日消印有効)までとなります。投票用紙は別途郵送のものを使用し、理事(10名)・監事(2名)に相応しいと思う会員に印をつけ、投票所宛の封筒を使用し、無記名で郵送して下さるようお願いいたします。

選挙管理委員会氏名

総会場で選出された選挙管理委員は次の通りです。
城戸 滋里氏 城丸 瑞恵氏 鷹野 朋実氏
(五十音順)

なお、規則により、選挙権は会費を(今回は平成21年度)期日までに完全に納入した人、被選挙権は、入会3年を経過し、会費を完全に納入した人に与えられます。

日本看護歴史学会会報 第55号

企画・編集 坪井 良子(国際医療福祉大学大学院)
高橋みや子(京都橋大学)
樋野 恵子(順天堂大学)

発行責任者 山崎 裕二(日本赤十字看護大学)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学

山崎 裕二

TEL 03-3409-0613

e-mail yamazaki@redcross.ac.jp

川原由佳里

TEL 03-3409-0185

FAX 03-3409-0589(代表)

e-mail kawahara@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>